

J Crit Care. 2016 ; 32 : 126-137.

## クロルヘキシジングルコン酸塩清拭が ICU における医療関連感染に与える影響

The effects of chlorhexidine gluconate bathing on health care-associated infection in intensive care units: A meta-analysis.

Kim HY, Lee WK, Na S, et al.

### 目的

この研究の目的は、重症患者における医療関連感染に対してクロルヘキシジングルコン酸塩 (chlorhexidine gluconate, CHG) の清拭が与える影響を評価することである。

### 方法

本メタ解析では、PubMed、Embase、Cochrane データベースから英語で記述された研究を評価した。日々の CHG 清拭と中心ライン関連血流感染 (CLABSI)、MRSA、VRE の各疾患・病原体を獲得するリスクの関連性に関する全ての研究を評価するために、Cochrane Collaboration メソッドを使用した。リスク比 (RR) とログリスク比の比 (RRR) をその 95%信頼区間とともに算出した。

### 結果

18 個の研究が解析対象となった。従来のケア方法に比べ、CLABSI、MRSA、VRE のリスク比 (95%信頼区間) は 0.45 (0.37-0.55)、0.67 (0.59-0.77)、0.60 (0.42-0.85) であった (全て  $p < 0.05$ )。MRSA 獲得に関しては、CHG 清拭のみの場合と比べ、同時に鼻腔内除菌も併用した場合に低減した (RRR : 0.81、95%信頼区間 : 0.66-0.98、 $p = 0.035$ )。長期の介入を行った研究では更に大きなリスク低減がみられた (1 か月ごとの RRR : -0.02、 $p = 0.027$ )。

### 結論

日々の CHG 清拭は CLABSI、MRSA、VRE 獲得のリスクを低減させた。より長期の介入や鼻腔内除菌の併用が MRSA 獲得の低減と関連があった。

### 監修者コメント

スタッフの介助によってもシャワーや入浴を行うことができない重症患者の保清は、清拭という行為によってしばしばなされる。これは看護ケアの中でも重要な行為のひとつであるが、清拭に対するある介入が感染対策上も注目されている。それは、CHG 水溶液を含んだ布で清拭することであり、従来の CHG を含まない布で清拭するよりも様々な感染症の防止効果があることがわかってきた。本研究ではこの 10 年ほどの研究をレビューし、メタ解析の手法を用いてその効果を検証した。アウトカムとしては、デバイス関連感染症である CLABSI と、耐性菌 (MRSA と VRE) の獲得を選択した。結果は、いずれのアウトカムも CHG 清拭によってリスクが低減され、本介入の効果が明確になった。日本では、現時点で CHG 清拭布は販売されておらず、清拭の適応を持つ CHG 含有薬液が無いこともあり、本介入が実施しにくい状況にある。使用できる薬液アレルギーなどに留意しつつ、ひろく CHG 清拭を実施できるようになれば、医療関連感染症のより一層の減少につながるであろう。

### 監修者

森兼 啓太 (山形大学医学部附属病院 検査部 部長・病院教授、感染制御部 部長)